

# 中国の現状と日米中関係

國分 良成（防衛大学校長）

## はじめに

- ・「中国共産党中央委員会工作条例」（9月28日中共中央政治局決議）：「2つの擁護」
- ・中国共産党第19期中央委員会第5回全体会議（第19期5中全会）開催

## 1. 「チャイナ・ファクター」の検証—習近平体制の強さと脆さ

### (1) コロナ対応の功罪

- ・体制的欠陥：初動の遅れと隠蔽と権力闘争（同例：88年上海A型肝炎、03年SARS）
- ・統制強化による課題の発見と対応の迅速性（国民の合意欠如）
- ・権威主義体制と民主主義体制の優位論争

### (2) 政治／経済体制

- ・政治（共産党）＞経済：成長時代の終焉＝改革・開放政策の終焉＝鄧小平時代の終焉
- ・習近平政治の全体主義化：個人崇拜・統制強化・マルクス主義 ⇒強さか、弱さか？
- ・非政治的世界の多元化：先端技術の突出、有能人材（特に理系）の大量輩出と飽和状態
- ・ニッチ部門への急速な浸透：サイバー、宇宙、海洋、デジタル通貨、海底ケーブル、国際機関

### (3) 香港／台湾問題

- ・「民主香港」の未完成＝行政長官選挙挫折：14年雨傘⇒19年逃亡犯条例⇒20年国家安全法
- ・「香港の中国化」は経済的損失を招くのか＝一国二制度の行方
- ・台湾：蔡英文＝李登輝時代の遺産 ⇒中国の太平洋進出 ⇒米中関係の行方

## 2. 米中関係の現状と今後

### (1) 冷戦後エンゲージメント（関与）の終焉

- ・クリントン（戦略的パートナーシップ）⇒ブッシュ（責任あるステークホルダー）⇒オバマ
- ・トランプ政権（役割分担：大統領＝経済 側近＝政治安保＝重要なペンス／ポンペオ演説）
- ・鄧小平の「韜光養晦」は終焉したか（頭を上げるのが早すぎたのか）

### (2) 大統領選挙の行方と米中関係

- ・トランプ vs バイデン：対中政策の温度差小さいが・・・
- ・米中の経済相互依存関係を脱することができるか

### (3) 対立の本質

- ・戦後アジア冷戦＝米中冷戦（朝鮮戦争契機）⇒米中接近（対ソで呉越同舟）⇒冷戦終結
- ・現在の対立の根源：体制間摩擦の復活？（再び体制の違いを乗り越えられるか）
- ・民主党／共和党ともに対中不信＝不信感は徐々に蓄積 ⇒習近平による憲法改正が引き金

## 3. 日中関係：戦略的互惠関係＋ $\alpha$ は可能か

### (1) 争点の移動：より直接的な国益問題へ

- ・70年代は台湾問題が中心
- ・80年代半ばから一部歴史問題、江沢民時代の95年以降本格化（愛国主義＝党史学習強化）
- ・2010年から中国の膨張傾向顕著：安全保障問題＝軍拡・領土・領海＝悪化の一途

### (2) 相互不信の本質

- ・本質としての体制間摩擦（89年天安門事件以来）：中国の不透明な政治体制への不信
- ・習近平国賓来日実現の意味と難しさ
- ・戦略的互惠関係（2006年～）の行方

## むすび

- ・習近平体制は安定しているのか？
- ・日本は米中関係の橋渡しをすべきか？
- ・日中関係は安定しているのか？
- ・期待や情念ではなく事実の客観的分析